

令和6年度 学校経営の改革方針

津市立栗真小学校

1 学校教育目標

「つながり合い 学び合う学校 ～あたたかく つよく しなやかに～」

自ら進んで考え、仲間とともに学び合い、学ぶことが楽しいと実感できる子どもを育てる

学校づくりの原点

「学校っていいな 友だちっていいな 先生っていいな 栗真っていいな わたしっていいな」

めざす学校像 ○楽しく生き生きと学び合う学校 ○新しい歩みを創り出す学校 ○保護者・地域に信頼される学校	めざす子ども像 ○自ら進んで考え学び続ける子ども ○自分も人も大切に子ども ○健康で粘り強く取り組む子	めざす教師像 ○互いに磨き合い、高まり合う教師 ○子どもの声に耳を傾け、子どもから学ぼうとする教師
--	---	--

【3つの見る】を大切に「**ていねいにつながる**」学校経営・学級経営を進めます。

〈子どものありのままを見る〉〈子どもの変化を見る〉〈子どものつながりを見る〉

ていねいに見て、ていねいにかかわり、ていねいにつながることで「いいな」とみんなが実感できる学校！

信 頼 感

達 成 感

安 心 感

自 己 肯 定 感

つ な が り

いいな

2 現状と課題

本校は、国道23号線に沿って南北に細長い校区で、住所が栗真地区であっても、隣接校との境界付近の児童は、隣接三校への入学を希望することがあり、各学年とも一クラス編成、十数名の少人数学級である。

児童は、どの学年も穏やかな雰囲気落ち着いて生活しており、どの子もまじめに活動することができる。また、縦割り活動等を通して、学年を越えみんなで何かをやり遂げようとする気持ちが育っている。その一方で、固定的な人間関係の中、切磋琢磨し互いに向上しようとする意欲にやや欠け、自分の考えや思いを伝えることにも苦手意識を持っている。

このことから、児童一人ひとりが「学ぶことが楽しいと実感できる授業」を目指し、児童にとって必然性のある学び、主体的な学びを生む授業づくりに取り組むとともに、ICTを利活用しながら、児童の創造的実践力の向上を図る必要がある。また、少人数の特性を活かした、特色ある学校づくりと保護者・地域への情報発信も肝要である。

また、地域の方々からは、地域の学校として学校を大切に思う声や期待する声大きい。SDGSを取り入れ、家庭・地域の方々や三重大学と連携して、栗真地域への愛着や誇りを持つとともに、多様な人々と協働しながら、自分にできることを主体的な創造的に実践していこうとする児童の育成を図ることも必要である。

こうした学校の特性・児童の特性・地域の特性を活かし、「ていねいなかかわり」「ていねいなつながり」を大切にした学校経営を行っていきたい。

3 重点目標および具体的な行動計画

(1) 「学ぶことが楽しいと実感できる」授業づくりを推進する。

- ①少人数学級の利点を生かして、すべての子どもたちの言葉、考えを引き出す授業を行い、授業で学んだことを自覚する「振り返り」の活動を充実させ、子どもたちが「主体的につながり、考えを深め合う」授業づくりを目指す。
- ②単元のゴールを設定し、必然性のある学び、主体的な学びを生む授業を創造する。
- ③「非認知能力」を視点にした「教科等横断的な学習」の教材開発を行うとともに、「架け橋プログラム」の取組との関連を図りながら取り組む。
- ④ICT等を効果的に利活用した「学ぶことが楽しいと実感できる」授業づくりを進めるとともに、授業のユニバーサルデザイン化を図る。
- ⑤三重大学との連携、外部講師の招聘、先進校視察等より広く深く研修を行い、「主体的な学びをどのように導き連続させていくか」ということを視点とした全教員による授業研究を実施する。
- ⑥家庭学習や自主学習を充実・発展させる授業づくりと学習習慣および読書習慣の確立に努める。

(2) 「考え、議論する道徳」と「人権教育」の実践を通して、共に生きる仲間づくりを推進する。

- ①達成感や成功感を育む実践を通して、子どもの自尊感情を高める。
- ②挨拶はコミュニケーションの第一歩であることを理解し、進んで挨拶のできる子どもを育てる。

- ③外国につながる人々との交流を通して、他国の様子を知り尊重する気持ちを育てる。
- ④人権学習を通して、人々の立場や思いを理解し、考えることができる子どもを育てる。
- ⑤地域の安全や発展のために力を尽くされている人々の生き方に学ぶ機会を生かし、地域への誇りを持つとともに、地域の一員としての自覚を育む。

(3) 自分自身の成長に関心を持ち、進んで体力向上を目指す児童の育成に努める。

- ①食教育、給食指導を通して、健康・成長の関わりに気づき、食の大切さがわかる子どもを育てる。
- ②体育の授業において、体ほぐしの運動を取り入れ、継続的に指導し、新体力テストの個人結果をより一層伸ばせるよう取り組む。
- ③児童会や縦割り班活動において、集団運動を進んで取り入れ、進んで身体を動かそうとする子どもを育てる。

(4) 地域の方々とのつながりを通して、生活と安全を守る行動力をもった児童の育成に努める。

- ①酒づくりなど様々な活動をされている地域の方々とのつながりを通して、取組の喜びや苦勞、課題や工夫などを知り、人々の生き方から、自分たちが地域の一員として地域の未来について考えることができる子どもを育てる。
- ②栗真地区の安全や防災についての取組を学び、生活や命を守るために、自分たちにもできることを考え、学んだことを地域に発信し、地域の人々とともに安全な暮らしを考えることができる子どもを育てる。
- ③日頃からの継続した安全教育を通して、学校内外での事故による怪我を防ぐために、危険を察知したり、危険を回避したりすることのできる子どもを育てる。

(5) 保護者や地域とのよりよい情報共有に努める。

- ①学校だより、学年だより、HPなどで学校の方針や取組を保護者・地域へ随時発信する。学校だよりは、月3回以上の発行、HPは、年間40回以上の更新を目指す。
- ②保護者からの相談には、子ども・保護者にとって「よりよい情報共有」対応を心掛け、必要に応じて家庭訪問を行う。
- ③登下校安全推進会や登校指導ボランティアとの連絡を密にし、情報を共有する。
- ④年3回の学校運営協議会を開催し、学校自己評価を受けての課題や改善について協議・協力を得ながら学校運営を行う。そのため、委員の皆様には、学校教育活動の様子を参観していただく機会をできるだけ多く設定する。
- ⑤保護者アンケートにおいて、90%以上の満足度達成を目標とし検証を進める。

(6) 安全で安心な学校を目指し、災害への備えや通学路の点検・校内学習環境の整備に努める。

- ①安全安心な環境について、常によりよい効果的な対策を検討するとともに、有事に備えた訓練を年間3回以上実施する。
- ②学校の防災学習について、積極的に地域に発信するとともに地域の自主防災組織、防災コーディネーター等と連携し情報共有する。
- ③登下校についての指導を年間3回以上行い、随時校区パトロールも実施する。また、登下校安全推進会等との連絡を密にし、情報を共有する。
- ④校内の安全点検を月1回実施し、校内学習環境の整備に努める。

(7) 「チーム栗真」として、互いに信頼し、助け合い、高めあえる職場づくりを推進する。

- ①目指す学校像の視点から、学校改善に向けて進んで行動する職員を育てる。
- ②「校長及び教員としての資質の向上に関する指標」を基に、各職員のライフステージに応じた資質能力を身につけられるよう、常にアンテナを高くし、互いに切磋琢磨しあって高めあおうとする気風、風通しのよい学校風土づくりに努める。
- ③教職員評価制度を活用し、児童の指導・校務分掌の進捗状況を把握するとともに個の特性に応じた指導助言を行い、教職員の満足度80%の達成を目標にする。
- ④児童の実態や指導内容、生徒指導上の問題等について情報交換を日常的に行い、全職員で子どもたち全員を理解し、「チーム栗真」で指導にあたるよう努める。
- ⑤徴収金事務の流れや公金の取り扱い方法、書簡のやりとり等の事務を確実に職員が遂行できる力をつけるとともに、個人に任せられることなく、確認し合い、遺漏のないよう、不備のないよう点検を徹底するよう努める。

(8) 教職員の総勤務時間の短縮に向けた取組を推進する。

- ①校務分掌や行事の見直しを行い効率的な学校運営に努め、一人当たりの月平均時間外労働が30時間以下になるよう、年360時間・月45時間以内の徹底を目指し、残業時間の縮減に取り組む。
- ②業務を見直し、効果的な会議運営を行い、職員会議等の会議時間を60分以内とし、60分以内終了会議の割合を80%となるよう努める。
- ③各学期、毎月2回と長期休業中の全日を定時退校日とし、最終施錠時刻18時に退校できた職員の割合が80%となるよう努める。
- ④1人あたりの年休取得日数の前年度比3日増加を目標とする。